施策評価シート（令和元年度～４年度）

分野	8　健康・福祉
政策	1　すべての人が住み慣れた地域で安心して共に暮らすことのできる地域社会を推進します
施策	1　地域福祉を担う人づくり
施策の目的	地域福祉に関する活動を行う人材の育成や、支え合い活動の支援の充実を図るために、支え合いの担い手の充実に取り組みます。また、一人ひとりがお互いを認め合い、思いやりの心を持つことができるよう、支え合いの意識づくりを目指します。

評価責任者	所属	保健福祉長寿局　健康福祉部 福祉総務課
	氏名	課長　山本　哲生

（１）総合評価

総合評価	令和元年度	**Ａ：施策の目的が達成されている。**	理由	「各種ボランティア育成事業におけるアンケート結果の満足度の割合」について、目標を上回る数値であったものの、平成30年度の数値と比較すると若干下回ったため。
	令和２年度	－	理由	新型コロナウイルス感染症の影響によりイベントが中止になり、アンケートを実施することができなかった。また、設定している指標の満足度の割合について、実績値を計測できなかったため、評価することができない。
	令和３年度	－	理由	－
	令和４年度	－	理由	－

※【評価基準】Ｓ：施策の目的が十分に達成されている。Ａ：施策の目的が達成されている。Ｂ：施策の目的があまり達成されていない。Ｃ：施策の目的が達成されていない。－：評価できない。
※総合評価は、原則、指標の達成状況（達成率）に基づき判断する。ただし、指標の分析結果や指標以外の成果等により、指標の達成状況（達成率）と異なる評価とする場合は、その理由を必ず記載すること。

（２）成果指標

	指標名	現状値	年度	目標値	実績値	達成率（%）	**評価**	目標値の算出根拠
成果指標	①子ども、②高齢者、③障がい者に関するボランティア活動に参加する人の割合	①7.3% ②11.4% ③6.9% （平成30年度）	1	－	－	－	－	社会情勢の変化に伴い、特に30～40代のボランティア参加率が低くなっており、平成30年度の結果が目標値を大きく下回っていたため、３次総後期実施計画策定のタイミングで目標値を見直し、平成25年度の基準値を目標値とした。
			2	－	－	－	－	
			3	－	－	－	－	
			4	①18.0%②13.0%③8.0%	－	－	－	
	各種ボランティア育成事業におけるアンケート結果の満足度の割合	96.5% （平成30年度）	1	90.0%	94.3%	105%	s	平成25年度と平成26年度の平均値89.3%を基準とし、毎年90%を下回らないよう設定した。毎年、市民交流イベントの際にアンケート調査を行っていたが、新型コロナウイルス感染症の影響でイベントを中止したため、同様の調査を実施できなかった。また、代替となる指標もなかった。
			2	90.0%	－	－	－	
			3	90.0%	－	－	－	
			4	90.0%	－	－	－	
			1					
			2					
			3					
			4					
指標以外の成果	・「福祉教育の推進」事業では、市が市社協を支援することで、市社協が学校（小・中・高等学校）と連携し、児童生徒に対して福祉体験や交流活動を行うことで福祉への理解を高めることができた。 ・「福祉ボランティアの育成」事業では、市が市社協を支援することで、市社協が啓発イベントや各種ボランティア養成講座などを実施し、ボランティア人材の育成が図られた。							

※【評価基準】ｓ：105%以上、ａ：95%以上105%未満、ｂ：85%以上95%未満、ｃ：70%以上85%未満、ｄ：70%未満

（３）施策を構成する主要事業

主要事業名	主な活動内容	優先順位	年度	現計予算額	前年度からの繰越額	決算額	人工			達成状況
							正規	非常勤	臨時	
福祉教育の推進	市社協に補助金を交付し、青少年（小・中・高校生）に、福祉に対する考え方や理解を深めてもらい、身近なところに福祉を感じられるよう事業の実施を支援する。	2	1	972	0	645	0.3	0.0	0.0	○
			2	873	0	353	0.3	0.0	0.0	
			3	―	―	―	―	―	―	
			4	―	―	―	―	―	―	
福祉ボランティアの育成	市社協に補助金を交付し、地域福祉の担い手であるボランティア人材の確保のため、啓発イベント、養成講座、研修等を行い、もって地域に還元できる活動を支援する。	1	1	720	0	564	0.3	0.0	0.0	○
			2	728	0	463	0.3	0.0	0.0	
			3	―	―	―	―	―	―	
			4	―	―	―	―	―	―	
元気いきいき！シニアサポーター事業	介護予防を目的として、65歳以上のシニア世代が、介護施設やＳ型デイサービスなどでボランティア活動を行うとポイントがたまり、本市の地場産品と交換できる事業の実施	3	1	73,233	0	56,720	0.8	0.0	0.0	○
			2	69,571	0	39,214	0.8		0.0	
			3	―	―	―	―	―	―	
			4	―	―	―	―	―	―	
静岡型地域包括ケアシステム情報発信事業	専用ウェブサイト構築・運営	4	1	3,403	0	2,393	0.8	0.2	0.0	○
			2	2,798	0	2,280	0.8	0.2	0.0	
			3	―	―	―	―	―	―	
			4	―	―	―	―	―	―	
			1							
			2							
			3							
			4							

※主要事業の優先順位は、各施策の目的や指標を達成する上で、重要度、貢献度などの観点から高いものから順位とする。
※達成状況の凡例（◎：計画より進んでいる、○：計画どおり進んでいる、△：計画より遅れている、－：計画上実施時期が到来していない、新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった）

（４）今後に向けた見直し等

年度	課題	見直しの方向性
令和元年度	特になし	
令和２年度	特になし	―
令和３年度	―	―
令和４年度	―	―

施策評価シート（令和元年度～４年度）

分野	8　健康・福祉
政策	1　すべての人が住み慣れた地域で安心して共に暮らすことのできる地域社会を推進します
施策	2　市民との協働による地域づくり
施策の目的	支え合いの基盤となる地域での活動や交流が活発となるよう、地域活動の活性化の促進を図り、地域課題の解決に向けた連携や協働を推進します。また、支え合いの力を高めていくことができるよう、支え合える地域づくりを目指します。

評価責任者	所属	保健福祉長寿局　健康福祉部 福祉総務課
	氏名	課長　山本　哲生

（１）総合評価

総合評価	令和元年度	**Ａ：施策の目的が達成されている。**	理由	「Ｓ型デイサービス事業実施会場数」について概ね目標を達成し、「地域福祉交流拠点連携事業数」についても順調に増加しているため。
	令和２年度	**－**	理由	新型コロナウイルス感染症の影響により、Ｓ型デイサービス、地域福祉交流イベント等の事業の一部を実施することができなかった。また、設定している指標「Ｓ型デイサービス事業実施会場数」及び「地域福祉交流拠点連携事業数」について、実施できなかった事業があるため、評価に足る実績値を測定することができなかった。
	令和３年度	**－**	理由	－
	令和４年度	**－**	理由	－

※【評価基準】Ｓ：施策の目的が十分に達成されている。Ａ：施策の目的が達成されている。Ｂ：施策の目的があまり達成されていない。Ｃ：施策の目的が達成されていない。－：評価できない。
※総合評価は、原則、指標の達成状況（達成率）に基づき判断する。ただし、指標の分析結果や指標以外の成果等により、指標の達成状況（達成率）と異なる評価とする場合は、その理由を必ず記載すること。

（２）成果指標

	指標名	現状値	年度	目標値	実績値	達成率（%）	**評価**	目標値の算出根拠
成果指標	地域活動（防災訓練など）に参加する人の割合	32.1% （平成30年度）	1	－	－	－	－	市民アンケートの結果、平成25年度から平成30年度までの間に、参加する人の割合は1.19倍となったため、同様の伸び率が継続するものと考え、平成30年度実績である32.1%に1.19を乗じた割合を目標値とした。
			2	－	－	－	－	
			3	－	－	－	－	
			4	38.2%	－	－	－	
	Ｓ型デイサービス事業実施会場数	275会場 （平成30年度）	1	280会場	277会場	98.9%	a	現状の会場数を維持しつつ、毎年５か所程度の拡大を目標値とする。
			2	285会場	221会場	77.2%	c	
			3	290会場	－	－	－	
			4	295会場	－	－	－	
	地域福祉交流拠点連携事業数	102事業 （平成30年度）	1	112事業	118事業	105.4%	s	過去の実績等から１年につき８団体の利用増を見込むとともに、指定管理の更新に伴い予定する地域福祉交流拠点推進事業の指定管理業務への追加等による増加分を考慮した。
			2	122事業	107事業	87.7%	b	
			3	132事業	－	－	－	
			4	140事業	－	－	－	
指標以外の成果	・地域が抱える福祉課題を解決する仕組みづくりの講座や支えあいボランティア活動など、地区社協が行っている活動を支援する市社協に対し補助を実施し、地域活動の活性化の促進が図られた。							

※【評価基準】ｓ：105%以上、ａ：95%以上105%未満、ｂ：85%以上95%未満、ｃ：70%以上85%未満、ｄ：70%未満

（３）施策を構成する主要事業

主要事業名	主な活動内容	優先順位	年度	現計予算額	前年度からの繰越額	決算額	人工			達成状況
							正規	非常勤	臨時	
避難行動要支援者避難支援制度の推進	避難行動要支援者名簿の登録対象者のうち、平時から地区の自主防災組織や民生委員への情報提供に同意した方の名簿等を自主防災組織等に提供し、日頃の見守り活動や避難訓練で活用してもらうことにより、災害時の避難支援体制を整備する。	1	1	4,750	0	3,788	2.0	0.3	0.0	○
			2	3,899	0	2,313	2.0	0.3	0.3	
			3	―	―	―	―	―	―	
			4	―	―	―	―	―	―	
地区社協の活動支援	市社協に補助金を交付し、各地区の住民や自治会・町内会、民生委員その他各種団体の代表者によって組織され、地域の福祉の推進や福祉課題及び解決に取り組む地区社協の活動を支援する。	3	1	25,756	0	24,369	0.3	0.0	0.0	○
			2	29,238	0	26,252	0.3	0.0	0.0	
			3	―	―	―	―	―	―	
			4	―	―	―	―	―	―	
生涯活躍のまち静岡（ＣＣＲＣ）推進事業	・駿河共生地区、葵おまち地区の市内２地区で、地域再生計画・事業計画に基づいた生涯活躍のまち静岡推進事業（取組）を実施する。 ・駿河共生地区の市地域福祉共生センター（地域交流拠点）を中心に、地域福祉、地域・多世代交流、地域の健康づくり事業等を実施する。 ・葵おまち地区では、再開発ビルを交流拠点に位置付け、商店街・大学・民間事業者と連携した健康プログラムの実施、シニア向けのお試し居住による移住支援等を実施する。	4	1	18,809	0	17,878	2.0	0.0	0.0	○
			2	17,926	―	15,667	2.0	0.0	0.0	
			3	―	―	―	―	―	―	
			4	―	―	―	―	―	―	
Ｓ型デイサービス事業	集会所等を利用し、介護予防、生きがいづくり、地域交流等のミニデイサービス（心身機能の維持向上のための体操、レクリエーション等）を実施する。	2	1	70,217	0	69,123	0.4	0.2	0.0	△
			2	53,320	0	37,954	0.4		0.2	
			3	―	―	―	―	―	―	
			4	―	―	―	―	―	―	
地域生活支援拠点等整備事業	障がい者の生活を地域全体で支えるためのサービス提供体制を構築する。	5	1	5,827	0	5,777	0.1	0.0	0.0	○
			2	5,781	0	5,792	0.1		0.0	
			3	―	―	―	―	―	―	
			4	―	―	―	―	―	―	

※主要事業の優先順位は、各施策の目的や指標を達成する上で、重要度、貢献度などの観点から高いものから順位とする。
※達成状況の凡例（◎：計画より進んでいる、○：計画どおり進んでいる、△：計画より遅れている、―：計画上実施時期が到来していない、新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった）

（４）今後に向けた見直し等

年度	課題	見直しの方向性
令和元年度	特になし	
令和２年度	特になし	―
令和３年度	―	―
令和４年度	―	―

施策評価シート（令和元年度～４年度）

分野	8　健康・福祉
政策	1　すべての人が住み慣れた地域で安心して共に暮らすことのできる地域社会を推進します
施策	3　一人ひとりに必要な支援を提供できる環境づくり
施策の目的	誰もが住み慣れた地域で暮していけるよう、一人ひとりの権利を守り、日常生活を支えるための安心につながる支援の充実、支援につながる取組の推進を目指します。

評価責任者	所属	保健福祉長寿局　健康福祉部 福祉総務課
	氏名	課長　山本　哲生

（１）総合評価

総合評価	令和元年度	**A：施策の目的が達成されている。**	理由	「セーフティネットが整備されているまちだと思う市民の割合」は目標値を若干下回ったものの、「市民後見人の養成」については第１期の研修を13人が修了するなど順調に進捗しており、全体として目的が達成されているため。
	令和２年度	**A：施策の目的が達成されている。**	理由	「セーフティネットが整備されているまちだと思う市民の割合」は目標値を上回り、「市民後見人の養成」については第１期の研修修了生が令和３年２月に本市の市民後見人第１号として選任されており、いずれも目的を達成しているため。
	令和３年度	**－**	理由	－
	令和４年度	**－**	理由	－

※【評価基準】Ｓ：施策の目的が十分に達成されている。Ａ：施策の目的が達成されている。Ｂ：施策の目的があまり達成されていない。Ｃ：施策の目的が達成されていない。－：評価できない。
※総合評価は、原則、指標の達成状況（達成率）に基づき判断する。ただし、指標の分析結果や指標以外の成果等により、指標の達成状況（達成率）と異なる評価とする場合は、その理由を必ず記載すること。

（２）成果指標

	指標名	現状値	年度	目標値	実績値	達成率（%）	**評価**	目標値の算出根拠
成果指標	セーフティネットが整備されているまちだと思う市民の割合	39.5% （平成30年度）	1	40.5%	37.3%	92.0%	b	市民満足度調査において、現状値（平成30年度）以降、年に１%ずつの増加を見込んで設定した。
			2	41.5%	43.3%	104.3%	a	
			3	42.5%	—	—	—	
			4	43.5%	—	—	—	
	家庭裁判所から市民後見人として選任された延べ人数	0人	1	0人	0人	—	—	期間中に市民後見人養成研修の修了が見込まれる、第１期の研修を13人が修了したほか、令和２年度以降も継続して研修を実施していく。これらの研修の修了者等の数を考慮して、第３次行財政改革後期実施計画の指標と整合性を図って設定した。
			2	1人	1人	100%	a	
			3	3人	—	—	—	
			4	6人	—	—	—	
			1					
			2					
			3					
			4					
指標以外の成果	・平成30年度から令和元年度にかけて市民後見人養成研修（基礎編・実務編）を実施し、13人が２年間に及ぶ研修を修了した。これらの修了者には、家庭裁判所から市民後見人として選任を受けられるようフォローアップ研修等を実施していくとともに、希望者には市社協の職員として、市社協の法人後見業務等に従事して実務経験を積んでいただく等の受任に向けた支援を継続していく。							

※【評価基準】ｓ：105%以上、ａ：95%以上105%未満、ｂ：85%以上95%未満、ｃ：70%以上85%未満、ｄ：70%未満

（３）施策を構成する主要事業

主要事業名	主な活動内容	優先順位	年度	現計予算額	前年度からの繰越額	決算額	人工			達成状況
							正規	非常勤	臨時	
成年後見制度利用促進事業	判断能力が十分でない市民に対する財産管理などの法定後見制度の利用促進を図る。 ・静岡市成年後見支援センターの開設及び運営 ・市民後見人養成研修の実施 ・後見人等の活動に対する報酬の助成	2	1	20,957	0	17,692	1.5	0.0	0.0	○
			2	22,399	0	21,849	1.5	0.0	0.0	
			3	―	―	―	―	―	―	
			4	―	―	―	―	―	―	
生活困窮者自立支援事業	生活困窮者自立支援法基づき、生活困窮者が抱える様々な問題について、自立相談支援機関において、対象者の状況に応じた包括的な自立支援計画を作成し、困窮状態から早期に自立するため、伴走型の支援を実施する。	1	1	43,124	0	43,123	1.0	0.0	0.0	○
			2	43,520	0	43,519	1.0	0.0	0.0	
			3	―	―	―	―	―	―	
			4	―	―	―	―	―	―	
高齢者向け優良賃貸住宅供給促進事業	入居する高齢者世帯の家賃を減額するため、民間賃貸住宅の管理者に対する助成を実施する。	5	1	115,158,000	0	107,290,000	0.3	0.0	0.4	○
			2	114,198	0	110,897	0.4	0.2		
			3	―	―	―	―	―	―	
			4	―	―	―	―	―	―	
「自宅でずっと」あんしん介護支援事業（がん末期在宅介護支援事業補助金）	がん末期患者の方の在宅介護にかかる費用の補助	4	1	1,000	0	16	0.1	0.0	0.0	○
			2	490	0	0	0.1	0.0	0.0	
			3	―	―	―	―	―	―	
			4	―	―	―	―	―	―	
生涯活躍のまち静岡（ＣＣＲＣ）推進事業	・駿河共生地区、葵おまち地区の市内２地区で、地域再生計画・事業計画に基づいた生涯活躍のまち静岡推進事業（取組）を実施する。 ・駿河共生地区の市地域福祉共生センター（地域交流拠点）を中心に、地域福祉、地域・多世代交流、地域の健康づくり事業等を実施する。 ・葵おまち地区では、再開発ビルを交流拠点に位置付け、商店街・大学・民間事業者と連携した健康プログラムの実施、シニア向けのお試し居住による移住支援等を実施する。	3	1	18,809	0	17,878	2.0	0.0	0.0	○
			2	17,926	―	15,667	2.0	0.0	0.0	
			3	―	―	―	―	―	―	
			4	―	―	―	―	―	―	

※主要事業の優先順位は、各施策の目的や指標を達成する上で、重要度、貢献度などの観点から高いものから順位とする。
※達成状況の凡例（◎：計画より進んでいる、○：計画どおり進んでいる、△：計画より遅れている、―：計画上実施時期が到来していない、新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった）

（４）今後に向けた見直し等

年度	課題	見直しの方向性
令和元年度	特になし	
令和２年度	特になし	―
令和３年度	―	―
令和４年度	―	―